

2011年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年 4月22日提出

1. 研究プロジェクト名		平安貴族の行動と見聞 古典資料アーカイブ利用の試み
2. 研究プロジェクト代表者		杉橋隆夫
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間		2011年 4月 ~ 2012年 3月
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	杉橋隆夫	立命館大学大学院文学研究科・教授
特別招聘教員		
研究員		
客員研究員	谷昇 上島理恵子 佐伯智広	立命館大学・非常勤講師 立命館大学・非常勤講師
PD	花田卓司	立命館大学衣笠総合研究機構・PD
RA		
学内研究協力者	佐古愛己 桃崎有一郎 滑川敦子 吉岡直人 駒井匠 田中誠	立命館大学文学部・任期制准教授 立命館大学文学部・任期制講師 立命館大学大学院文学研究科・研究生 立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程 同上 同上
その他	マーチン・コ ルカット 岡田英樹 元木泰雄 西村隆 山本崇 井上幸治 田辺記子 横澤大典 長村祥知	米国プリンストン大学東洋学部・教授  同上 京都大学大学院 人間・環境学研究科・教授 京都府立図書館・司書 (独法)奈良文化財研究所・技官 京都市歴史資料館・嘱託職員 立命館守山高等学校・教諭 龍谷大学・非常勤講師 京都大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員(PD)

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

**【研究計画】**

本研究では、主に古代・中世の古典史料を素材として、史料の読解による情報収集・分析など、歴史学的考察を基軸としながらも、地理学、情報分野等にかかる研究プロジェクトと連携して、学際的研究手法を導入し、最新の情報技術を適用した古典史料活用方法の開拓、および歴史学研究における新たな可能性を提示することを試みる。本年度も引き続き、平安中・後期の平安京とその周辺における貴族の移動や、京都への人の流入および京都から地方の流出について検討を加え、当該期貴族社会における空間移動の問題および都鄙間交流の意義を具体的・総体的に追究することを目指すとともに、伝統的な歴史研究の手法である現地調査・史料読解・分析等に加え、GIS（地理情報システム）など最新の技術を導入して行動軌跡を視覚表示する地図の作製と、これまでに開発を手がけた経路の使用頻度を自動計算するソフトに改良を加えることにより、移動軌跡をビジュアル化する技術の開発に取り組む。

以上、基礎的作業の集積と開発した技術の応用によって、今後、様々な時代の古記録分析に活用の範囲を拡大して、人々の行動パターンとその経年変化あるいは普遍性などを解明することが可能になると予測される。新技術を用いた歴史学研究の新たな可能性を追求するとともに、視覚的・具体的に理解しやすい地図やシステムの構築を通じて、研究成果を広く共有することに努めたい。

**【教育計画】**

本研究プロジェクトは、事業推進担当者指揮のもと、学内外共同研究者・PDと本学・他大学院生等によって遂行される。とりわけ、PDや本学院生による研究の推進と院生に対する研究者養成教育が重視されるのはいうまでもない。

下記教育研究項目のいくつかは、2007年度より、大学院（文学研究科）ゼミにおいてすでに作業を開始している。また、「人文科学の主要問題」ゼミにおいて、史学・地理学・情報学等、関連諸分野との連携を深めるとともに、GISや電子図書館をはじめとする最新の情報処理技術習得の機会を設ける。これにより、史料操作・読解能力の養成など人文学における伝統的方法論の習得はもとより、デジタルアーカイブ、GIS、ITなど最先端の情報技術にも精通した研究者の育成を目指す。

また、作業効率を高めるため、ゼミ出席のPDと院生を研究課題ごとに班編成し、各班に責任者を設ける。さらに、研究の継続性を考慮して、下回生を副責任者として、作業・技術の維持、継承と発展にも努める。PD・院生は複数の研究課題に相互乗り入れし、本研究全体を見通した上で各人の分担作業に取り組むとともに、従来からの個人の専門研究を尊重しつつも、本研究プロジェクトの課題に即した内容の論文を大学院在学中に必ず1本（以上）公表するよう指導する。各人分担研究の報告と議論の場を設定し、計画的な研究の推進と相互理解をはかりつつ研究を推進する。

以下、教育研究計画を研究項目ごとに記す。

**【1】平安貴族の行動に関する研究**

古典資料（古記録・古典籍）から、天皇・院・女院、摂関、一般貴族から庶民にいたる多様な階層の年間行動記録を抽出し、行動パターンを身分（家格・官位）・性別・年齢・職掌・移動目的などの属性に分類、典拠史料や年度別のデータからなる「行動記録データベース」を作成する。

昨年度までに作成した平安中・後期の古典史料（『御堂関白記』・『小右記』・『権記』・『左経記』・『春記』・『中右記』・『兵範記』）の行動記録データベースに関しては、再度見直しを施し、情報の脱漏等を補いデータベースを完成させる。

今年度は新たに、大学院ゼミ出席の学外研究者、PDと院生一人ひとりが古記録を分担してデータベースを構築する。具体的には、『宇多天皇宸記』『中右記』『玉葉』『明月記』『民経記』『勅仲記』『花園天皇宸記』という平安初期から鎌倉後期に至る史料に調査対象を拡大し、時期的な行動様式の変化などについて考察を行う。

さらには『閑谷集』を素材に都鄙間交流のモデルケースを構築して平安京内にとどまらない都鄙間交流について分析を進める。

これらをもとに、人々の行動を規定する諸要素（地理的条件・政治・思想・宗教的背景）に関する考察や、様々な日記の空間情報に分析を加え、記主の身分・階層差による情報の質・量の偏差や空間認識・行動様式の差異が生じる背景を追求して、貴族社会の構造と京都の都市の変遷および都鄙間交通の動態との関係を検討する。

**【2】GISを活用した平安京・中世京都の歴史地図の作製移動経路の視覚化**

21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」以来の研究経過に鑑み、地理学教室矢野桂司教授および京都学プログラム河角龍典准教授による研究プロジェクトと連携して、GISの技法を用いた歴史地図を作製する。その上で、【1】で作成した平安～鎌倉時代の史料から得た移動データベースを基に、出発点から目的地への移動経路を視覚化するシステムを構築する。これまでに作成した平安京内の視覚化に加えて、京郊（白河・六波羅・鳥羽）、宇治、石清水、奈良までを対象とする。

これらの作業は、地理学専攻の教員・院生の協力を得て進めると共に、本プロジェクトの院生を中心にアークGISソフトの使用方法を習得して実施する。

### 【3】「解説シート」の公開

院政期京都における重要地点（邸宅・寺社等）について歴史解説や現況写真を貼付した「解説シート」は、21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」およびグローバルCOE2008年度において、京都市街全域のシートが完成している。Webサイト（「バーチャル京都」の「院政期の京都市街を訪ねる」）上での研究成果の公開の方途を地理学研究班と打ち合わせを行い、公開に努める。

### 【4】『兵範記人名索引』増補改訂版の刊行

昨年度までに大学院ゼミにおいて、2007年5月に刊行した『兵範記人名索引』の逆引き（確認）作業を実施し、索引全体の校正作業を完了した。今年度は、索引の利便性向上を図り異称・通称・官職名索引の作製に取りかかり、最終的には、増補改訂版『兵範記人名索引』として本研究期間内の刊行を目指す。

### 【5】『兵範記』校訂本データベースの完成と公開

『兵範記』自筆浄書本と対校した校訂本データベースについて、文字統一・脱漏の補訂作業をPDおよび学内外の研究協力者・院生等（アルバイト雇用）により実施し、ほぼ完成の域に達した。すでに完成している刊本フルテキストデータベースとともに、情報理工学部前田亮准教授の研究プロジェクトに提供し、データベースの改訂を依頼する。

### 【6】京都学デジタル図書館の構築

21世紀COEプログラム以来、前田准教授の研究プロジェクトと連携して、『兵範記』人名索引と刊本・校訂本のフルテキストデータベースから構成される『兵範記』データベースを構築してきた。この間、検索効率の向上や情報の充実を図るために協議・検討を重ね、試験的な公開を行った。

地図・解説シートとのリンク方法などについても最終的な協議・検討を実施し、京都学デジタル図書館の完全公開を目指す。

### 【7】2011年EAJS（エストニア・タリン）学会報告（8月）

2011年EAJSの「History(Section 7), Subsection 2: Changing the Perspective: The Non-Human Realm in Japanese」において、PD花田卓司氏と博士課程後期課程田中誠氏が報告を行う。田中氏は主として本プロジェクトの「平安貴族の行動」に関する研究成果を中心に、平安京とその周辺的环境などとも関連づけて報告する。

### 【8】日本文化デジタル・ヒューマニティーズシンポジウム（11月）報告と『シリーズ：日本文化デジタル・ヒューマニティーズ叢書（京都文化研究班）』（ナカニシヤ出版）の執筆

グローバルCOEプログラム最終年に当たり、21世紀COEより継続してきた本研究プロジェクトの研究成果を、近年の研究動向を踏まえた上で整理するとともに、2011年EAJSでの報告内容を併せて、上記シンポジウムにて報告するとともに、成果の一部を上記書籍掲載論文にて発表する。

その他、本年6月に招致予定のプリンストン大学の学生向けセミナー等、機会を捉えて研究成果の公表と社会還元、教育への反映に努める。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
【1・2】 4月～9月  6月～11月	以下、上記研究概要に基づき、今年度の研究計画を研究項目ごとに記す。 【1・2】貴族の行動・移動経路に関する研究 データ整理とデータベースの作成。 移動経路を視覚化するためのシステム構築・改良の打ち合わせ（地理GIS・情報系プロジェクトとの打ち合わせ会議等） GIS歴史地図・移動経路表示システム構築とデータの分析、情報の充実	【1・2】 立命館大学 文学研究科(教室)、地理学研究室および自宅作業
【3】 11月  1月	【3】GISを活用した平安京・中世京都の歴史地図および「解説シート」の公開 「解説シート」公開準備作業 地理学専攻との共同作業。校正等、必要に応じて院生のアルバイトを雇用する。 web公開	【3】 立命館大学地理学研究室
【4・5・6】 8月 8～9月 4・5月 7月 ～3月	【4・5・6】『兵範記人名索引』増補改訂版準備作業と京都学デジタル図書館の構築 2007年5月刊行の『兵範記人名索引』の校正作業の完成。 異称・通称・官職名索引の作成 校訂本フルテキストデータベースの校訂作業 データの集約。web上で公開に向けて情報理工学部前田亮准教授のプロジェクトと適宜意見交換 刊本・校訂本フルテキストデータベースの公開	【4・5・6】 ～立命館大学文学研究科(教室)および自宅作業
【7】 ～8月 8月24～27日	【7】2011年EAJS(エストニア・タリン)学会報告(8月) 報告のための準備作業 学会報告	【7】 立命館大学 文学研究科(教室)および自宅作業 エストニア・タリン
【8】  ～11月  9月末、11月末	【8】日本文化デジタル・ヒューマニティーズシンポジウム(11月)報告と『シリーズ：日本文化デジタル・ヒューマニティーズ叢書(京都文化研究班)』(ナカニシヤ出版)の執筆 プロジェクト研究成果の整理と論文執筆準備作業  研究発表、論文執筆	【8】 立命館大学文学研究科(教室)および自宅作業